



日本統計学会 会報 2012.1.25

No.
150

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
(財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax: 03-3234-7738
編集責任—岩崎 学(理事長) / 中西 寛子(庶務理事)
根本 二郎(広報理事) / 鈴川 晶夫(広報理事)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|---|
| 1. 巻頭随筆：統計関連学会連合と他学会のバランス
..... 富澤貞男… 1 | 6.5 コンペティションセッション報告… 林 篤裕…11 |
| 2. 2012年度統計関連学会連合大会のお知らせ
(第一報)…… 瀬尾 隆・水田正弘・宿久 洋… 3 | 7. 研究部会新設公 ……………12 |
| 3. 第6回日本統計学会春季集会のご案内(第二報)
… 岩崎 学・狩野 裕・佐藤美佳・渡部敏明… 4 | 8. 国際ベイズ分析学会世界大会 (ISBA World Meeting)
のご案内…… 和合 肇・大森裕浩・谷崎久志…13 |
| 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について
…………… 岩崎 学… 6 | 9. 教育用擬似マイクロデータの試行提供につい
…………… 坂下信之…14 |
| 5. 統計検定の実施について…………… 美添泰人… 8 | 10. 日本経済学会連合からのお知らせ
…………… 小島 宏・西郷 浩…15 |
| 6. 2011年度統計関連学会連合大会報告 | 11. 臨時理事会・委員会報告 ……………15 |
| 6.1 運営委員会報告 …………… 中村永友… 9 | 12. 研究集会案内：平成23年度統計情報セミナー
『GISの展望と国勢調査データ等の活用』 ……………17 |
| 6.2 プログラム委員会報告 …………… 西井龍映…10 | 13. 新刊紹介 ……………18 |
| 6.3 チュートリアルセッション報告
…………… 大森 崇・栗原考次…10 | 14. 学会事務局から ……………19 |
| 6.4 市民講演会報告 …………… 大森 崇…11 | 15. 投稿のお願い ……………19 |

1. 巻頭随筆：統計関連学会連合と他学会とのバランス

富澤 貞男 (東京理科大学)

皆様ご存知のように統計関連学会連合は6つの統計関連の学会からなる連合組織であり、統計に関する研究発表は統計関連学会連合大会や6学会で毎年盛んに行われています。また、統計に関する研究はこれらの6学会のみならず他の学会でも盛んに行われています。私は現在、6学会以外では日本数学会の統計数学分科会(統計関係)から選出された評議員をしており、ここ数年間気になっていることがあります。良い機会ですので、それに関して以下述べて頂きます。日本統計学会(あるいは統計関連学会)以外の学会の事情をここで述べることに皆様からお叱りを受けそうで

ですが、統計関係の他の学会の事情を知って頂くことも大事と思いますのでお許し頂きたいと存じます。

私はもう30年以上も日本数学会の会員であります。この学会は、10の分科会があり、その1つに統計数学分科会があります。そして確率関係と統計関係の分野からなっています。ちなみに日本数学会の会員数は約5000名で、そのうち統計数学分科会に所属している会員は約700名です(2011年7月時点で)。日本統計学会の会員数は約1500名です。日本統計学会と日本数学会の両方に所属している方は、両学会の名簿を基に調べてみると約

200名のようなので、したがって数字から見た限りでは、日本統計学会の会員の中で「統計数学」の研究分野に関心のある方は約13%と言えるでしょうか（少し言い過ぎかもしれませんが）。

最近気になっていることは、日本数学会の統計関係の研究発表件数が30年前、20年前、あるいは10年前と比べて減少していることです。この学会は毎年3月下旬と9月下旬に開催されていますが、予稿集やプログラムを基に約30年間にわたりこの学会の統計数学分科会における統計関係の発表件数を調べてみました（年間4件の特別講演を含む）。1981年から1990年まで年間平均85件、1991年から2000年まで年間平均66件、そして2001年から2011年まで年間平均44件であります。なお、統計関係と見なして良いか判断できない発表は入れてありませんので、これらはおおよその値とお考え下さい。また年度ごとの詳細は略しますが、発表件数は、2001年以降かなり減っています。しかし、最近若い方の発表が多いように思えます。「統計数学」の分野を若い方が積極的に研究し発表しようという傾向は、大変良いことと思います。また、自分が昔発表した頃と比べて、今の若い方はプレゼンテーションが非常に上手であると感心しています。

さて、統計関連学会連合大会ですが、第1回大会が参加3学会主催、1学会協賛の下に2002年明星大学において開催され、その後2005年に6学会からなる統計関連学会連合が成立しています。統計関連学会連合大会と日本数学会での最近の発表件数の比較をしてみたいと思います。2006年から2011年までの統計関連学会連合大会における発表件数は年間平均298件であり、日本数学会における発表件数は年間平均47件です。後者の前者に対する割合は0.15であり、これは上述の日本統計学会会員の中で日本数学会会員である割合0.13に近い値であり、何かうなずける値であります（奇妙な比較であります）。

私は日本数学会での統計関係の発表件数がもし今後減少するならば、「統計数学」という分野は存在感が薄れてこの学会から将来消える方向へ進まないだろうかと心配であります。もしそうになると、高校の「数学」の教科書から統計が消えることにならないだろうか、その場合、大学入試出題範囲や統計検定への影響はないだろうか、そして大学等の特に数理系の統計分野の教員（研究者）のポストは将来的に減ることにならないだろうか、といろいろと心配になってきます。統計数学分野の発展、普及、存在感等を示すためには統計関連学会連合の発展と共に、日本数学会における統計数学分野の存在感等もっと高める必要があるのではと感じています。そのためには、以前のようにこの学会の統計関係の発表件数がもっと増えてほしいと思います。

ところで、平成25年度科研費の公募において細目等が変更される予定である旨のお知らせをメーリングリスト stats:2998と stats:3049にて流ささせて頂きました。それに依りますと平成25年度から理工系の数物系科学（分野）の数学（分科）における細目には「統計数学」は入っておらず、「統計数学」は、数学基礎・応用数学（細目）の中のキーワード（記号）に入るそうです。現在は細目に、数学一般（含確率論・統計数学）とあるのですが、誠に残念なことです。このことは上述の心配が少しずつ現実のものとなりつつあるのでは、と懸念されるのであります。

統計関連学会連合はこれから益々関連6学会が一体となり大きくなって行くことは大変良いことであると思います。しかし、連合（6学会）以外の他学会の統計分野がもし縮小して行かならば、全体としては将来的に大きなマイナスにならないかという心配があります。統計関連学会連合と共に他学会の統計関係分野も共に発展して行くことが重要であると思います。皆様はどのようにお考えでしょうか？

2. 2012年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

—企画セッションの公募—

運営委員会委員長 瀬尾 隆（東京理科大学）

実行委員会委員長 水田正弘（北海道大学）

プログラム委員会委員長 宿久 洋（同志社大学）

1. 2012年度統計関連学会連合大会について

2012年度統計関連学会連合大会は、統計関連学会連合に参加している全ての学会である応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の共催により、2012年9月9日（日）から12日（水）まで開催いたします。初日の9月9日は、市民講演会およびチュートリアルセッションを北海道庁そばのかでる2・7 (<http://homepage.kaderu27.or.jp/>) で開催し、9月10日から12日までは、コンペティションや企画セッションなどの一般講演、ソフトウェアセッションなどを北海道大学高等教育機能開発センター (<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/>) で開催いたします。

2. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しております。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

また、企画セッションに関しましては、今回もこれまでどおり公募いたします。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画のご提案を歓迎いたします。なお、応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください。

企画セッションの申込みに際しては、セッションのテーマとねらい、オーガナイザーの氏名・所属・連絡先、予定講演者と演題名を大森プログラ

ム委員会委員宛てメールにてお知らせください。企画セッション1件あたりの時間は120分を予定しております。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切り

2012年2月17日（金）

企画セッション応募先

連合大会プログラム委員

大森 崇（同志社大学）

[tomori\(at\)mail.doshisha.ac.jp](mailto:tomori(at)mail.doshisha.ac.jp)

(at)を@に置き換えて下さい。

3. その他の準備状況のご報告

3.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項はつぎの通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画で、今回で10回目を迎えます。参加資格は2012年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者です。所属や資格（大学院生、教員、社会人）は問いません。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申し込み時点でコンペティション対象者は、共催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます。また、事前審査は行ないません。申し込んだ有資格者全員がコンペティションに参加して頂けます。審査は、当日の口頭発表に対して、数名の審査員と参加者の一般審査との総合評価で行います。

3.2 チュートリアルセッション、市民講演会、

ソフトウェアセッションについて

9月9日に以下のようなチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって有益な内容ですので皆様の参加をお待ちしています。

<チュートリアルセッション>

テーマ1：主成分分析と因子分析の基礎と応用
(仮)

講師：足立浩平先生（大阪大学）

テーマ2：テキストマイニングの活用（仮）

講師：依頼中

<市民講演会>

テーマ1：統計検定：出題傾向と結果分析

講師：岩崎 学・吉田 清隆（成蹊大学）

テーマ2：新薬の開発に統計学はどのように利用されているのか

講師：大森崇（同志社大学）、安藤友紀（医薬品医療機器総合機構）

3.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や参加の事前申込み、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬（予定）とし、それ以降、報告集原稿提出および参加事前申込の締め切りを設定いたします。確定した期日や具体的な企画は、2012年4月ごろの第二報でお知らせいたします。

3. 第6回日本統計学会春季集会のご案内（第二報）

岩崎 学（日本統計学会理事長）

狩野 裕・佐藤美佳（企画・行事担当）

渡部敏明（春季集会実行委員長）

第6回日本統計学会春季集会を下記の要領で開催いたします。会員の皆様の活発な議論を期待しております。口頭発表セッションは、招待講演セッションと会員の皆様からのご提案によるセッションから成り、下記のプログラムとなりました。ポスターセッションでは、ポスター発表を広く募集しております。優れたポスター発表に対して、実行委員会から「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。また、セッション終了後、懇親会を計画しており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

春季集会に先だって3月2日（金）、3日（土）には一橋大学（東2号館2201教室）にて第8回統計教育の方法論ワークショップが予定されています。詳細につきましては学会のホームページをご覧ください。ワークショップへのご参加も検討して頂ければ幸いです。

記

日時：2012年3月4日（日）10：00～17：30
+懇親会

会場：一橋大学 東2号館+マーキュリー
ホール（東京都国立市中2-1）

参加費：無料（懇親会は有料）

プログラム

[午前の部]

10：00－10：10 「開会式」

開会：岩崎 学（日本統計学会理事長）

挨拶：竹村彰通（日本統計学会会長）

10：10－11：40

「統計教育の質保証～国際機関・学協会による大規模アセスメントに関する動向～」

オーガナイザー：竹村彰通（東京大学）

座長：川崎茂（総務省）

講演1：Iddo Gal（President-Elect of the IASE, University of Haifa）

「Adult numeracy and statistical literacy: conceptual, assessment, and educational challenges (OECD 国際成人力調査 PIAAC の枠組み)」

講演2：Hing-Wang Fung（香港統計学会前会長, Chair of the HKSS Examination Board）[予定]

「香港統計学会における専門統計家育成と認定の取り組み：Joint Examination of The Royal Statistical Society and The Hong Kong Statistical Society」

講演3：竹村彰通（東京大学）

「統計検定を通じた統計分野の質保証」

11：40-13：20

「ポスターセッション（コアタイム）」（昼休み）

[午後の部]

13：20-15：00

「政府統計ミクロデータをめぐる最近の動向」

オーガナイザー：小林良行（一橋大学）

座長：安田 聖（一橋大学 名誉教授）

講演1：森 省吾（総務省）

「政府統計の活用に関する取組状況」

講演2：秋山祐樹（東京大学）

「住宅地図を用いた国勢調査の非集計化による世帯及び居住者の擬似的分布データの開発」

講演3：森 博美（法政大学）

「レジスターベースの統計制度におけるビジネス・レジスター」

15：15-17：15

「リスク、信頼性、そして確率統計：震災一年、

統計学の役割を問う」

オーガナイザー・座長：狩野 裕（大阪大学）

講演1：柴田義貞（長崎大学）

「低線量・低線量率放射線被曝の健康影響」

講演2：鈴木和幸（電気通信大学）

「信頼性・安全性トラブルの未然防止と問題解決」

講演3：木下富雄（国際高等研究所）

「リスク学と確率論の悩ましき関係」

講演4：戸田山和久（名古屋大学）

「科学哲学の視点からリスク評価について考える一何が問題なのか」

コメンテーター：椿 広計（統計数理研究所）

17：15-17：30 「総合討論」

18：00-20：00 「懇親会」

会場：マーキュリーホール

（マーキュリータワー7階）

○ポスターセッションの申し込み

メールにて poster-harul2@jss.gr.jp 宛てお申し込みください。詳細は学会ホームページ http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/06/JSSspring2012_poster.html をご覧ください。なお、申し込み締め切りは2月10日（金）です（厳守）。

○懇親会の申し込み

メールにて konshin12@jss.gr.jp 宛てお申し込みください。詳細は学会ホームページ http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/06/JSSspring2012_party.html をご覧ください。なお、申し込み締め切りは2月20日（月）です。

4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集について

岩崎 学（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

- 第17回 日本統計学会賞
- 第8回 日本統計学会統計活動賞
- 第8回 日本統計学会統計教育賞
- 第6回 日本統計学会研究業績賞
- 第5回 日本統計学会出版賞

いずれも推薦締切りは2012年4月6日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページからダウンロード可能です。

<http://www.jss.gr.jp/ja/society/prize.html>

推薦書の宛先はすべて以下です。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会ください。

[宛先・照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F

（財）統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL & FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

2011年4月からの学会法人化に伴い、各賞受賞者を報告する代議員会の開催時期が毎年6月とこれまでより早まっていますので、すべての賞の推薦締切りを上記のように設定しました。昨年、一昨年とは締切り時期が異なりますのでご注意ください。なお、各賞受賞者には9月開催の連合大会にて受賞記念講演をお願いする予定です。

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

○各賞共通

[受賞対象]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

[推薦方法]

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

[選考方法]

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

[発表]

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

○各賞の概要

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

- (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
- (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
- (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリ

ズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[推薦・選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

過去3年程度に日本統計学会誌あるいは内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文を審査対象とする。受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事2名，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書(研究，教育あるいは啓蒙)を出版した著者，訳者あるいは出版社を顕彰し，わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は，次に挙げるいずれかの要件を満

たすものとする。

- (1) 著者，编者あるいは訳者として，過去5年程度に刊行された統計学に関連する研究，教育あるいは啓蒙上の図書。
 - (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。
- 受賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事2名，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する。

5. 統計検定の実施について

美添 泰人 (統計検定運営委員会委員長)

2010年夏の日本統計学会総会で承認を受けた統計検定の事業に対しては，会員の皆様の大きな支援を頂いています。最初の検定が2011年11月20日に，東京，大阪，福岡の5つの一般会場と，各地に設置された7つの団体特設会場で実施されました。会員の皆様からは，問題の作成・点検，会場の手配・運営など，予想を超える献身的な協力を頂きました。企画に直接携わった関係者を代表して，心よりお礼申し上げます。

今回の検定では1級と国際資格を除いた5つの種別で試験が実施されました。申込者総数は1210名となり，各種別の申込者数，受験者数，合格者数，合格率は次のとおりです。

2級	396	346	143	41.3%
3級	226	197	125	63.5%
4級	27	23	16	69.6%
統計調査士	296	280	161	57.5%
専門統計調査士	265	252	200	79.4%

なお統計調査士と専門統計調査士については，所定の基準を満たした受験者に資格を授与しますが，資格認定数はそれぞれ161名，132名となりました。

試験の結果については試験実施の1か月後に，希望者のみWebで発表しました。郵便による試験結果の通知および合格証は1月中旬に発送する予定です。なお成績上位者に対しては表彰状を贈ることとして，その手配も進めています。英国王立統計学会(RSS)に準じて，これらの成績優秀者は本人の同意が得られれば，Web等で氏名を公開することを検討しています。

試験とは別に，従来から総務省が統計教育の普及啓発活動の一環として実施してきた「統計グラフ全国コンクール」に関連して，優秀な作品の制作者への日本統計学会会長賞の授与および「統計検定4級(活動賞)」の授与も，学会で承認されています。今年の統計グラフ全国コンクールへ

の応募作品数は25418点、そのうち優秀と認められ「4級（活動賞）」を授与される作品の受賞者数は1194名となりました。日本統計学会会長賞は、2011年11月16日（水）に東京都で開催された第61回全国統計大会において、竹村彰通会長から副賞とともに授与されました。また4級（活動賞）の表彰状は各都道府県の統計協会を通じて送付される予定です。Web合格発表に合わせて、これらの内容も公開していますので、学会からのリンクを辿ってご確認下さい。小学生が竹村会長から表彰状を受け取る、ほほえましい写真も掲載されて

います。

これらの活動は、大学教育に限らず、統計的思考方法の普及およびその成果の評価を通じた統計教育の質保証に貢献することを目的としています。2012年5月にはRSSと共同で実施する国際資格試験が始まります。また国内資格については2012年11月18日に検定1級を含めて第2回目の試験を実施する予定です。

これまでの活動を支えて頂いた会員の皆様には、重ねてお礼申し上げます。今年度以降も、引き続きご協力下さいますよう、お願い致します。

6. 2011年度統計関連学会連合大会報告

6.1 運営委員会報告

運営委員長 中村 永友（札幌学院大学）

おかげさまをもちまして、統計関連学会連合2011年度大会（第10回大会）を無事開催することができました。東日本大震災の影響を懸念いたしました。チュートリアルセッション、市民講演会、震災特別企画セッション、本大会参加者いづれも多数のご参加を頂き、また本大会講演数も297件と盛況のうちに終えることができました。統計関連学会として、大震災に対してどのような貢献ができるかと考えた上で、プログラム委員会のご尽力により、震災特別企画セッションを設けることができました。無事終えることができましたことは、ひとえに関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物であると厚く御礼申し上げます。

運営委員会の業務について簡単にご報告いたします。運営委員会の業務には大きく次の4つがあります。（1）大会参加受付業務、（2）報告集作成、（3）広告掲載の募集・受付、デモセッションの企画、（4）大会運営に係る会計業務。以下に簡単にご報告いたします。

報告集は、例年通りウェブページ上で発表申し込み、原稿提出、著者による確認をして作成しました。今年度は報告集の原稿フォーマットを揃えるために、何度か事務局とやりとりされた方もい

らしたと思います。ご協力誠にありがとうございました。

広告に関しましては、本年度も報告集とウェブページのバナー広告をはじめとする多様な広告を募集致しました。おかげさまで多くの関連企業や研究機関のご協力を得ることができました。心より感謝申し上げます。今後ともご協力のほど何卒お願い申し上げます。

最後に会計についてですが、現時点では決算できておりません。金銭的な大きなトラブルもなく大会を終えることができましたので、ウェブページを通していづれ報告をいたします。

本連合大会は実行委員、プログラム委員、運営委員など無償のボランティアで運営されています。各委員は丸一年間大会開催の準備に関わります。一部の委員に過度の負担が集中することを避けるために事務局業務の外部委託が進めております。皆様のご理解をいただければ幸いです。

最後ではございますが、今年度も大会実行委員会及びプログラム委員会の積極的なご協力を得て、大会の円滑な運営を行うことができました。この場を借りて両委員会の委員長、各委員の諸氏、九州大学の学生アルバイトの諸君、委託業者の皆様、運営委員会の諸氏のご協力に、心から御礼申し上げます。

げます。

6.2 プログラム委員会報告

プログラム委員長 西井 龍映 (九州大学)

2011年度統計関連学会連合大会は、統計関連学会連合の6学会（応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会）の共催、九州大学GCOEの後援により2011年9月4日（日）から7日（水）まで開催されました。4日は市民講演会およびチュートリアルセッションをアクロス福岡（福岡市）で、5日からは本講演を九州大学伊都キャンパスで開催しました。交通・宿泊に不便な新キャンパスでの開催であることや台風の影響が心配されましたが、参加者総数821名、発表件数299件を数えました。講演数の内訳は企画セッション55件、コンペティション29件、一般215件です。また懇親会には191名の出席があり、盛会でした。講演者、座長、企画セッションオーガナイザー、出席者の皆様に感謝申し上げます。

大会では2011年3月11日の大震災に関連した発表が見受けられました。なかでも特別企画セッション「大震災の科学的評価と人間行動」は250名の参加があり、地震・津波予測の精密化、放射線影響の疫学調査の必要性、風評被害の抑制等、今後統計研究者がなすべきことについて熱い議論が交わされました。（連合大会の震災への取り組みについては朝日新聞で報じられました。また震災に関連した日本統計学会和文誌の特集が企画されています。）以下ではプログラム委員会が担当しました企画について、各担当者が報告いたします。

実行委員、運営委員、プログラム委員の皆様には献身的なご協力をいただき、無事に大会を閉じることができました。あらためて心から御礼を申し上げます。

6.3 チュートリアルセッション報告

大森 崇 (同志社大学)

栗原 考次 (岡山大学)

[テーマA] ゲノム情報に基づく個別化医療へ：

マルチオミックスデータと統計解析

講師：井元清哉（東京大学）

チュートリアルAのテーマAは、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターの井元清哉先生に「ゲノム情報に基づく個別化医療へ：マルチオミックスデータと統計解析」というテーマでお話ししていただきました。会場はアクロス福岡4F 国際会議場でした。前半は、参加者全員が必ずしも馴染みがあるわけではない分子生物学の基礎的な話から始まり、疾患原因の遺伝子を探るためのどのようなことが行われているのかをわかりやすく解説していただきました。分子レベルの話から疾患のメカニズムの話など広い範囲の内容の中で、大規模なデータがどのように得られるかということから、広く行われている解析の結果の紹介までカラフルなグラフィカル表示で提示されていたことが印象的でした。後半は、遺伝子間のネットワークの話題が中心になり、どのようにネットワークを構成するかという数理的な方法の原理と、それを実現するためのスーパーコンピュータの話題でした。ネットワークの構成に関しては、既存の構成方法の解説だけでなく、最近開発された個々人のネットワークを構成するネットワークプロファイラーの必要性やアイデアをわかりやすく説明いただきました。さまざまなバックグラウンドの参加者を相手に広範な内容を3時間にまとめるのは大変な作業ではなかったかと思います。会場が次に使用する予定があったため、ゆっくり質疑の時間が取れなかったのは残念ですが、次々と紹介される興味深い内容に約80人の参加者も満足いただけたのではないかと思います。

[テーマB] 時空間統計学の理論と経済・脳信号データ分析への応用

講師：松田安昌（東北大学）、吉田あつし（筑波大学）、三分一史和（統計数理研究所）

第1部では、松田先生に時空間データ分析の基本的な考え方について紹介していただきました。講義では、主に空間回帰モデルに焦点を当て、時空間予測（クリギング）、推定法、状態空間モデ

ルによる時空間データ分析について、時系列分析の方法と比較しながらどのように拡張されているのかをわかりやすく解説していただきました。

第2部では、吉田先生に時空間統計学の空間計量経済分析への応用についてお話ししていただきました。講義では、立地戦略を含めた企業の戦略における競争と空間の経済理論的背景として、差別化、競争の指標に基づくモデルとその分析について解説するとともに、具体例として、競合する航空会社の出発時間、私立中学の入試日程、診療所の立地への応用等について紹介していただきました。

第3部では、三分一先生に脳信号データの時空間解析への応用について解説していただきました。まず、脳科学分野の紹介及び脳信号データの計測方法について丁寧に説明していただきました。次に、脳信号データを、時間軸、空間軸、周波数軸に分解した3つのドメインに対する解析法について、代表的な解析法と実データへの適用についてわかりやすく解説いただくと共に、最近の研究成果を紹介していただきました。

講演の後、質問の時間を設け、階層ベイズモデルや迷惑施設の立地問題等について活発な議論が行われました。

6.4 市民講演会報告

大森 崇 (同志社大学)

市民講演会は9月4日アクロス福岡4F国際会議場で行われました。例年と同様に2テーマが用意され、テーマ1は村上征勝先生(同志社大)による「若紫やさぶらふーいま『源氏物語』をコンピュータで読む」、テーマ2は長尾篤志先生(国立教育政策研)「新学習指導要領で目指すものー統計の内容を中心にー」というテーマでお話ししていただきました。台風の影響もあり時折激しい雨も降っていましたが、会場には多くの100名以上の参加者が集まりました。村上先生のお話は日本が誇る歴史的な文学作品、源氏物語についてです。54巻からなる壮大な物語ははたして同一人物によって書かれたのかどうかについて、文章に現れる

言葉のデータベースから品詞を集計することで検討を行うという内容でした。長尾先生のお話は、新学習指導要領が改訂される際にどのような点が注目されていたのかというものでした。統計学は新学習指導要領下では、かなり多くのことが扱われることになりましたが、それは数学的能力の活用が課題となった背景によっていたということでした。高等学校などの統計学の教育がこれに答えることができるかどうかが大切であるということでした。長尾先生の話に関心があった中学校・高等学校の先生方も多かったのではないだろうかと思います。村上先生のお話にあった具体的な文化現象の計量的な解析の話題は、まさにデータを生かす恰好の例となったのではないのでしょうか。

6.5 コンペティションセッション報告

林 篤裕 (九州大学)

研究内容とプレゼンテーション能力を競う企画として2003年度にスタートしたコンペティションセッションは、今回で9回目を迎えました。年を追うごとに申込数が増加し、今年は29件と予想を大きく上回る過去最高の講演数で、皆さんのご協力の下、盛況の内に終えることができ担当者として安堵しております。統計分野の発展のためにも多くの若手の方々に興味を持っていただけたことは非常にありがたいことと感じております。

本セッションの参加資格は2011年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者で、所属や資格(大学院生、教員、社会人等)は不問とし、連名講演の場合は実際に口頭発表をされる方としました。また、事前審査は行わず、申し込まれた方全員に大会当日に講演していただきました。審査方法も従来を踏襲し、当日の口頭発表に対して、審査員およびセッション参加者に評価してもらい、それらを総合的に評価して行いました。評価は、研究内容は勿論、うまく内容を伝えられたか、質問に的確に答えられたかという発表の仕方も含めて、全体としての素晴らしいプレゼンテーションになっているかを評価の対象とし、A、B、Cの3段階

評価（A：受賞に値する，B：受賞としてもよい，C：受賞に値しない）を用いました。なお，公平性の観点から講演者自身や共著者並びに同じ所属機関に属する方の評価は除外しました。

コンペティションセッションは9月5日（月）の午前と午後（1）の2つの時間帯に2セッション並行の合計4セッションで開催し，選考作業はプログラム委員会で行いました。講演数が多かったこともあり，慎重に審議した結果，最優秀報告賞を2名，優秀報告賞を5名選出しました。前者には，藤本翔太さんと保科架風さんの2名が，また後者には，小川光紀さん，里村裕紀さん，仲真弓さん，矢原耕史さん，山本倫生さんの5名が選ばれました（いずれも五十音順）。9月6日（火）夕方に開催された懇親会の中で審査結果を発表し，統計関連学会連合大会理事長より表彰していただきました。各人の「受賞のことば」を連合大会のサイトに掲載しておきましたので，ご覧いただければ幸いです。

今回のコンペセッションの反省点としては，講演数とスケジュールの関係でやむなく並行セッションとせざるを得ず，1発表当たりも15分しか割り当てることができなかったことを申し訳なく思っております。また，新しい試みとしては，

コンペティションセッション参加者の懇親会費を事務局側で負担することとして，多くの方々に参加していただいた中で表彰することを目指しました。

参加者の皆さんが，それぞれに工夫を凝らしたプレゼンを用意され，日頃の研究活動と練習成果を発揮された講演を行っておられる様がよく判りました。受賞された方に限らず，今回の経験を活かして今後につなげていただければと運営を担当した者として期待しており，将来の統計科学の一端を担って活躍していただければとも思っております。

最後になりましたが，この紙面では私が代表して報告させていただきましたが，実際の細々とした作業や検討には，金藤浩司（統計数理研究所），宿久洋（同志社大学），星野伸明（金沢大学）の各先生方のご協力があったり成り立ちました。今回ご発表いただいた方々を含めて皆さんに感謝をして報告を終えることにします。どうもありがとうございました。

コンペティション受賞者の受賞のことばは，前号（149号）に掲載済みです。

7. 研究部会新設公募

統計学の研究活動を助成するため，日本統計学会が1954年に研究部会制度を設けて以来，これまでに多くの研究部会が誕生し，統計の発展に寄与して参りました。この制度は，公募制をとり，原則として年1ないし2件が評議員会の承認を得て発足します。部会の設置期間は原則，2年以内とします。補助金は1部につき年間10万円で，部会設置後1年を経過したとき，過去1年間の部会の経過報告書及び会計報告書を，また設置期間が終了したとき，経過ならびに成果に関する報告書及び会計報告書を評議員会に提出しなければなりません。また，部会の設置期間終了のとき，寄与し

た成果について，本学会会報等に報告を掲載して広く会員に公表するものとするようになっていきます。

以下の要領で研究部会を公募いたしますので，ふるってご応募ください。

応募期日 2011年12月19日～2012年2月18日

応募先 〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

（財）統計情報研究開発センター（Sinfonica）内
日本統計学会事務局

tel & fax：03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

応募書類の書式は学会ホームページよりダウンロードください。採否は3月に開催予定の社員総会にて審議の上、決定します。

なお、研究分科会（設置期間4年間）については随時募集しております。こちらにも積極的にご応募ください。研究分科会の趣旨等については会員名簿の記載または学会ホームページをご参照ください。

8. 国際ベイズ分析学会世界大会 (ISBA World Meeting) のご案内

組織委員長：和合 肇（京都産業大学）
事務局長：大森 裕浩（東京大学）
広報担当：谷崎 久志（大阪大学）

International Society for Bayesian Analysis (ISBA, 国際ベイズ分析学会) とは、科学・産業・行政など各方面での理論的課題および実務的課題に有用であるベイズ統計学の理論的研究とその応用を推進するために設立された国際学会です。1993年に第1回世界大会がアメリカで開催されて以来、定期的にISBA世界大会 (ISBA World Meeting) が世界各国で開催されてきました。来年2012年6月にアジアで初めて国際ベイズ分析学会世界大会が京都で開催されることになっています。2012年世界大会 Website (<http://www2.e.u-tokyo.ac.jp/~isba2012>) で情報を随時更新していますが、概要は下記のとおりです。

現在、ポスター・セッションの募集中です。奮ってご応募下さい。

[大会名称] 国際ベイズ分析学会世界大会2012 (ISBA World Meeting 2012)

- ・2012年世界大会 Website :
<http://www2.e.u-tokyo.ac.jp/~isba2012>
- ・ISBA 学会 Website :
<http://www.bayesian.org>

[日時] 2012年6月25日(月)～29日(金)

[場所]

京都テルサ : <http://www.kyoto-terrsa.or.jp>

[日程]

- ・ポスター・セッション募集終了 :

2012年2月28日

- ・早期参加登録終了 : **2012年3月8日**
- ・通常参加登録終了 : **2012年5月24日**
- ・オンサイト参加 (当日参加) :

2012年6月25日～29日

[協賛] 応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本テスト学会, 日本統計学会, 日本分類学会, 日本マーケティング・サイエンス学会

[後援] 日本学術会議, 内閣府経済社会総合研究所, 日本銀行金融研究所

[参加費 (ISBA 会員・協賛学会会員の場合)]

- ・早期参加登録 : 38,000円 (学生 : 28,000円)
- ・通常参加登録 : 43,000円 (学生 : 33,000円)
- ・オンサイト参加 : 未定
- ・法人参加登録 :

3名まで120,000円, 5名まで200,000円

(*) ただし、チュートリアル・セッション参加費とバンケット代は別料金です。

[開催趣旨]

ベイズ統計学およびベイズ分析といった分析手法については未だ広く認知された分析手法とはいえない状況ですが、近年その注目度は非常に高く、『ベイズ』という言葉を冠した日本語による入門的なビジネス書及び数学書の出版は10冊を超える勢いです。このように急速にその重要性が認識されるようになったベイズ分析に関する、最先端かつ国際的な世界大会をわが国で開催できることは、

国際的な研究水準の向上はもちろん、わが国の医学・薬学、環境問題、金融やビジネスの実務などの実務家にとっても、非常に有益な会議となること予想されます。ベイズ統計学およびベイズ分析といった分析手法は、その応用範囲が広く、医学・薬学、環境問題の分析、金融（ファイナンス）実務、マーケティング実務などの国内外の幅広い研究者や実務家から注目されている研究分野です。このような研究分野の国際大会をわが国で開催できることは、国内に対しては、大学院生を含む研究者及び実務家に対して、その国際的な研究水準を紹介するとともに、その分析手法の有効性について広く周知することができます。また対外的には、世界各国より最先端の研究者が一堂に会することにより、国際的な研究水準の周知はもちろんであるが、最先端の研究交流、国際的な共同研究の端緒となることも充分期待できます。さらに、大学院生を含む若手研究者の育成に関しては、またと無い機会であり、今後の我が国におけるベイズ分析の発展が大いに期待できます。

[セッションの種類と内容（講演者、講演タイトル等）]

(1) チュートリアル・セッション (The ISBA Lectures on Bayesian Foundations, 4件) :

- ・ Donald A. Berry (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA), “Slowly but Surely, Bayesian Ideas Revolutionize Medical Research”
- ・ Christian P. Robert (University of Paris Dauphine, France), “Approximate Bayesian Computation

(ABC): Advances and questions”

- ・ Aad W. van der Vaart (VU University Amsterdam, Netherlands), “Some frequentist results on nonparametric Bayesian analysis”
- ・ Mike West (Duke University, USA), “Bayesian Dynamic Modeling”

(2) 招待講演 (Keynote Lectures, 5件) :

- ・ Arnaud Doucet (University of British Columbia, Canada), “Bayesian Inference with Intractable Likelihood Functions”
- ・ Alan Gelfand (Duke University, USA), “Demographic Analysis of Forest Dynamics using Stochastic Integral Projection Models”
- ・ Tomoyuki Higuchi (Institute of Statistical Mathematics, Japan), “Data assimilation and sequential Bayes filters: Information fusion with numerical simulation”
- ・ Chris C. Holmes (University of Oxford, UK), “Bayesian methods in cancer genomics”
- ・ Stephen G. Walker (University of Kent, UK), “Advances in Bayesian nonparametric regression and time series”

(3) その他 :

- ・ 招待セッション (Invited Sessions, 20件) :
上記の2012年世界大会 Website 参照のこと。
- ・ 特別セッション (Special Topic Sessions, 34件) :
上記の2012年世界大会 Website 参照のこと。
- ・ サテライト・ミーティング :
2012年6月22, 23日に統計数理研究所にて。

9. 教育用擬似マイクロデータの試行提供について

坂下 信之 (独立行政法人統計センター)

独立行政法人統計センターでは、公的統計のマイクロデータの利用を推進するため研究活動の一環として、大学などでの統計演習に利用可能な教育用擬似マイクロデータの作成方法の研究を行っています。教育用擬似マイクロデータは、本来のマイクロデータ（調査票情報）から集計した集計表を基に

作成した擬似的なデータで、本来のマイクロデータとは異なりますが、基となったものに近い集計表が復元できるため、本来のマイクロデータの特性を引き継いでいるものといえます。

この教育用擬似マイクロデータについて、試行提供を開始しました。

詳しくは、統計センターホームページ

をご覧ください。

http://www.nstac.go.jp/services/index_edu.html

10. 日本経済学会連合からのお知らせ

小島 宏・西郷 浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では、例年通り平成23年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します。応募者多数の場合、日本経済学会連合理事会が対象者を選考します。また、1回の募集につき1学会1件の応募が原則ですので、希望者が複数の場合には理事会で選考いたします。募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください。

日本経済学会連合 国際会議派遣補助

(a) 目的：

加盟学会の会員が、平成24年4月1日から平成25年3月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合、往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する。

(b) 補助額：

原則として開催地により6段階（15万円から40万円まで5万円刻み）とする。

(c) 募集時期：

第1回：平成24年2月10日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第2回：平成24年5月末日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

局宛の締め切り）

注）第2回は、第1回選考の結果、余裕定員があるときにのみ応募する。

(d) 応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること、申請学会よりの派遣者が同会議での報告者または討論者であること、被派遣者は、過去5年間、日本学術会議から派遣費を受けていないこと、また、当年度において、日本学術会議をはじめ他の期間から補助を受けていないこと、申請は、1回の募集につき1学会1件に限る。

(e) 備考：

申請には、当該国際会議に関するインフォメーション（レター、プログラムなど）を添付すること。また、補助を受けた被派遣者は、帰国後1ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること。この補助を受けて国際会議に出席した場合には、経済学会連合評議員会（10月ごろ）にて30分程度の報告を依頼することがある。

11. 臨時理事会・委員会報告

臨時理事会報告

日時：2011年12月3日（土） 12：00～13：10

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

出席者

理事：竹村彰通会長、岩崎学理事長、中西寛子（庶務）、上野玄太（庶務）、大野忠士（会計）、小林正人（会誌編集・欧文）、青嶋誠（会誌編

集・和文）、根本二郎（広報）、西郷浩（大会）、渡辺美智子（検定）、狩野裕（企画）、（以上11名、カッコ内は役割分担）

監事：美添泰人、渡部敏明（以上2名）

<第1議案> 常設委員会における委員の交代と追加について

岩崎理事長より、以下の委員会における委員の

交代および追加が提案され、承認された。

・大会委員会

古澄英男委員より竹田裕一委員に交代(2011.9.8
付け)

星野伸明委員より紙屋英彦委員に交代(2011.9.8
付け)

・広報委員会委員の追加

北村佳之委員(任期2011.12.3~2014.3.31)

<第2議案> 臨時委員会について

岩崎理事長より、以下の臨時委員会における委員の任期を延長することが提案され、承認した。

従来の任期はいずれも2011.4.1~2011.12.31であったものを、満了時期を1年延長し2012.12.31とされた。

・質保証委員会(任期2011.4.1~2012.12.31):

美添泰人(委員長)、岩崎学(副委員長)、今泉忠、田村義保、舟岡史雄、渡辺美智子、山本拓、伊藤彰彦、田栗正章

・基準委員会(任期2011.4.1~2012.12.31):

田栗正章(委員長)、今泉忠、岩崎学、岡太彬訓、折笠秀樹、竹村彰通、田村義保、椿広計、西村圭一、林篤裕、水田正弘、山口和範、渡辺美智子、美添泰人、藤井良直

<第3議案> 研究部会の募集について

岩崎理事長より、研究部会設置の募集を行うことが提案され、承認された。尚、募集期間は2011年12月19日より2012年2月18日までとする。

<第4議案> 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

岩崎理事長より、学会賞各賞の候補者推薦を開始することが提案され、承認された。尚、推薦受付期間は2011年12月19日より2012年4月6日までとする。また、会長が推薦する選考委員は次回社員総会において承認を得る。

<第5議案> 会員の入退会について

岩崎理事長より、回収資料に基づき入退会者が

紹介され、承認された。

<第6議案> 資格検定について

竹村会長より、来年度の統計検定1級合格者に対する待遇に関する問題提起があり、今後、議論することとした。

<第7議案> 横断型基幹科学技術研究団体連合の理事候補推薦について

岩崎理事長より、本学会から田村義保会員、渡辺美智子会員を推薦することが提案され、承認された。

<第8議案> 韓国統計学会誌について

中西庶務担当理事より、韓国統計学会誌を図書館等の機関への販売価格が販売経路によって格差がある問題点が報告され、審議の結果、今後は本学会から図書館等の機関への販売は行わないこととした。

<第9議案> 准会員(仮称)について

上野庶務担当理事より、他学会における同等の会員の状況の報告があり、今後、慎重に議論を進めていくこととした。

<第10議案> ISI(The 2013 World Statistics Congress)への対応について

竹村会長より、資料に基づき、ISIへの対応方針に関する提起があり、本学会として、日本サテライトミーティング等の企画に協力することを承認した。

岩崎理事長より、次回の理事会は2012年2月17日(金)15:00~に、また、社員総会は2012年3月3日(土)18:30~に開催予定であるとの報告があった。

委員会報告

日時:2011年12月3日(土) 13:10~15:00

場 所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

出席者：竹村彰通会長，岩崎学理事長，中西寛子，上野玄太，大野忠士，小林正人，青嶋誠，根本二郎，西郷浩，渡辺美智子，狩野裕，美添泰人（監事），渡部敏明（監事）

1. 欧文誌編集委員会

小林委員長より，編集作業が順調に進んでいるとの報告があった。また，査読時の匿名性に関する議論がなされた。

2. 和文誌編集委員会

青嶋委員長より，(1) 第41巻第1号が9月末発行されたこと，(2) アーカイブのオンライン公開状況（出版直後からアブストラクトまで公開，6か月後から全文公開），(3) 第41巻第2号（2012年3月号）の編集計画と進捗状況，(4) 第42巻第1号（2012年9月号）の編集計画，に関する報告があった。第41巻第2号では臨時に故塩谷実先生の追悼記事，第42巻1号では東日本大震災に関する特集が組まれる。

3. 大会委員会

西郷委員長より，資料に基づき，連合大会に関する運営委員会・プログラム委員会からの報告，国際交流委員会から2011年12月16-19日に開催される中国統計学会における国際セッションに関する報告があった。

4. 企画・行事委員会

狩野委員長より，資料に基づき，第6回春季集会（2012年3月4日（日），一橋大学）の準備状況の報告がなされた。東日本大震災と統計学に関するシンポジウムが計画されている。開催に当たって，ポスター発表者の旅費補助，会場借用などに支出が見込まれるという問題が提起され，これまでの春季集会では無料であった参加費の徴収の可能性を含め，会計上の見通しを確認することとした。

5. 庶務委員会

上野委員より，(1) 会員名簿の送付希望者をハガキで募ったこと，(2) 欧文誌の出版助成（科学研究費補助金）の申請を行ったことが報告された。

中西委員長より，社員総会における議案は総会の2週間前に通知する旨が確認された。

6. 広報委員会

根本委員長より，資料に基づき，会報150号の編集計画が示された。

7. その他

竹村会長より，(1) 75周年の記念出版（「21世紀の統計科学」東大出版会）が絶版になるに際し，原稿をウェブで公開できるよう進めたいと報告があった。また，(2) 統計検定の宣伝と今後の継続性に関する提案があった。

12. 研究集会案内：平成23年度統計情報セミナー『GISの展望と国勢調査データ等の活用』

講演内容：

「空間情報の展望と統計情報」〈東京会場〉

浅見泰司（東京大学空間情報科学研究センター教授・センター長）

「地理空間情報技術による都市・地域サービスとこれからの展開」〈大阪会場〉

柴崎亮介（東京大学空間情報科学研究センター教授）

「東日本大震災における統計局の取組み－GISを利用した被災地図－」〈両会場〉

木村正一（総務省統計局統計調査部調査企画課地理情報室長）

「経済センサスの創設と平成21年経済センサス基礎調査の結果の概要」

岩佐哲也（総務省統計局統計調査部経済基本構造統計課長）〈東京会場〉

村田 宏（総務省統計局統計調査部経済基本構造統計課企画官）〈大阪会場〉

日時・場所：

【東京】2012年2月14日（火）

ベルサール神保町 3階「ROOM3・4・5」

【大阪】2012年2月21日（火）

大阪国際会議場 12階「1202室」

（両会場とも13：30～16：30）

お申し込み：当財団ホームページ

（<http://www.sinfonica.or.jp/>）よりお申し込みください。

締切は2月10日（東京会場）、2月17日（大阪会場）です。参加費は無料です。

お問い合わせ：（財）統計情報研究開発センター

TEL 03-3234-7471

13. 新刊紹介

本会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●足立浩平・村上 隆『非計量多変量解析法—主成分分析から多重対応分析へ—』朝倉書店、2011年8月25日、3200円＋税

内容紹介：主成分分析と、その拡張である非計量主成分分析、および、多重対応分析を、体系的に論じた書籍である。特異値分解から始める線形代数と題した章を設け、これを出発点とする事が本書の特徴の一つである。

●山下智志・三浦翔題名『信用リスクモデルの予測精度 AR値と評価指標』朝倉書店、2011年9月、4095円

●西山陽一『マルチンゲール理論による統計解析』近代科学社、2011年10月、3780円（税込）

●汪 金芳・桜井裕『ブートストラップ入門』（Rで学ぶデータサイエンス4）共立出版、2011年12月、3,675円

内容紹介：本書は、ブートストラップ法を系統的に解説した本邦初の入門書である。推定量の精度の推定、信頼区間の構成、回帰分析、仮説検定、時系列データ解析、効率的リサンプリング法などをRの実行例とともに解説している。

●金子優子『独自開発データで読み解く公益法人の構造』多賀出版、2012年1月、4,830円（税込）

内容紹介：我が国経済社会における公益法人（特別民法法人）の活動実態を他の経済主体との対比において明らかにする統計を、行政記録と統計調査結果の完全照合により新たに整備したので、その結果を公表するものである。

14. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2011年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

財団法人 統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

江見 康一 名誉会員
上村 一夫 正会員

入会承認

石森裕康, 北原秋一, 澤谷秀之, 関洋行, 谷合弘行, 玉置洋, 鳥海重喜, 松添博, 丸山宏, 山上真吾, (株)ニッセイ基礎研究所 (敬称略)

退会承認

石川誠, 石原英樹, 川島利兵衛, 小林裕子, 野田一雄, 平野勝也, 松井宗也, 村岡了一, 大正製薬(株) (敬称略)

長期間連絡不能により退会したとみなされた会員

荒川満, 出雲敏彦, 市村英彦, 上原啓明, 大場紀彰, 奥村拓史, 斎藤大輔, 新保一成, 菅原伸治, 立川雅基, 東淵則之, 浜本功司, 平田篤由, 三浦徹志, 宮本勉, 武藤真介, 矢島崇顕 (敬称略)

現在の会員数 (2011年12月26日)

名誉会員	18名
正会員	1,370名
学生会員	54名
総計	1,442名
賛助会員	14法人
団体会員	6団体

15. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

• 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

• 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

• 求人案内 (教員公募など)

• 研究集会案内

• 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください. 紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください.

できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します.

原稿送付先:

〒451-0052 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院経済学研究科
社会環境システム専攻
根本 二郎 宛
Tel: 052-789-4929
Fax: 052-789-4924

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp